

地震探査データ上でのガスハイドレートの解釈

Interpretation of gas hydrate in seismic data

小林 稔明 [1]; 佐伯 龍男 [1]; 稲盛 隆穂 [1]; 高山 徳次郎 [2]; 高野 修 [3]

Toshiaki Kobayashi[1]; Tatsuo Saeki[1]; Takao Inamori[1]; Tokujiro Takayama[2]; Osamu Takano[3]

[1] JOGMEC; [2] 石資・技研; [3] 石油資源技研

[1] JOGMEC; [2] JAPEx Research Center; [3] JAPEx Research Center

<http://www.jogmec.go.jp>

JOGMEC は、MH21 コンソーシアムの一員として、資源量評価分野の研究を担当し、わが国周辺に分布するとされる MH の資源としての可能性を追求している。その一環として 2002 年、東部南海トラフ海域において基礎物理探査「東海沖・熊野灘」3 次元地震探査を実施した。当海域では、地震探査の他、試錐を実施し、物性情報も取得している。また、地震探査データを用いて、速度解析及び地震波アトリビュート解析を実施した。今までに得られた知見は、ガスハイドレートは高比抵抗、高速度に対比される、孔隙に富んだタービダイト砂層に胚胎している点、等である。現在、取得した地震探査データの解釈を行っており、試錐から得られた物性情報、速度解析結果、アトリビュート解析結果、シーケンス解析結果、震相解析結果を総合してガスハイドレート胚胎の詳細解釈を行っている。今回 3 海域の内、エリアの東部に位置する東海沖エリア海域の地震探査データ上でのガスハイドレートの解釈例を紹介する。